

ブナ科植物（ドングリ）との出会い探訪@東京

本橋 篤（ワイルドライフマネジメント事業部 計画策定支援室）

秋が深まり、紅葉の季節に差し掛かると、足元に転がるドングリを見つけることがあります。

この業界に身を置く者として、「ブナ科堅果」と聞けば、多くの人が野生動物の貴重な食料資源というイメージを抱くかと思いますが、一般の方には？が浮かぶかもしれません。「ドングリ」と聞けば、ほとんどの人が「ああ、あれね」と、幼い頃の記憶と結びついた記憶がよみがえるのではないでしょうか。

ブナ科植物は、ほぼ日本全国どこでも見られる広葉樹であり、私たちの身近な存在です。日本列島に広がるブナ科の森は、食料源としてだけでなく、地域ごとに異なる文化を生み出す基盤となりました。植物生態学者の中尾佐助や文化人類学者の佐々木高明らが提唱した「照葉樹林文化論」と「ブナ帯文化論」は、西日本と東日本の文化的な差異を、それぞれの地域を代表する森林の植生か

ら読み解こうとしたものです。その中でも、「ブナ帯文化」は、東日本から日本海側の冷涼な地域に広がる、ブナやミズナラなどの落葉広葉樹の森を舞台とした文化圏です。（ざっくりですが）東日本では、米の代わりにヒエ、アワ、ソバといった雑穀の栽培や、狩猟、山菜やキノコの採集が主な生業でした。建築や道具にはブナやナラの材が用いられ、牛よりも馬が重要な家畜として利用されるなど、照葉樹林文化とは大きく異なる生活様式が育まれました。東日本でソバ食が広まった背景には、ブナ帯の気候に適した焼畑耕作があったと考えられています。このように、過去的生活様式は照葉樹林・ブナ林から生まれた文化であるとも言えます。

ブナ林から生まれた文化もありますが、ブナ科植物自体の現代にかかる文化や歴史もちろん存在します。現代で、それもコンクリートジャング



写真1 多摩市に植えられているマテバシイとアスファルトに落ちたドングリ

ルと呼ばれる都市の風景に目を向けてみると、私自身も都心に近い場所で暮らしていますが、この時期になるとアスファルトの歩道にドングリが散らばっている光景に出会います。都内の街路樹や公園にもブナ科植物は植栽樹として存在していることがわかります。

ブナ科の樹木、特にマテバシイやシラカシといった常緑広葉樹は、意図的に都市の景観に取り入れられてきた歴史があります。東京都内の公園や街路樹として、これらの木々が選ばれてきたのには理由があり、その1つが優れた機能性です。マテバシイやシラカシは、都市特有の公害に強く、密生する枝葉は古くから防風林や防火林として重宝されてきました。江戸時代の屋敷では、生垣としてこれらのカシ類含めた常緑広葉樹を植え、火災の延焼を防ぐ「屋敷林」を形成していました。常緑広葉樹は葉に多くの水分を含むため、燃え広がりにくい性質を持っています。例えば南房総地方などでは、こうした植栽文化が地域の景観と安全を作ってきた歴史があります。現代の都市計画

においても、防災機能への期待から街路樹として選ばれる一因となっています。つまり、街角のドングリの木は、単なる緑の装飾ではなく、私たちの生活を守るために配置された、生きているインフラの一部でもあります。

現代に話を戻します。色々な出会いから身近な存在といえるであろうブナ科植物は、そこから新たな経験・文化が生まれることもあります。例えば、都内の公園に植えられたドングリは、子どもたちの遊びの1つとなり、自然へ触れる貴重な第一歩となります。さらにはキャンプで使うための炭として使われたり、ブナの木を使ってスプーンを作ったり、ドングリを練り込んだおしゃれなクッキーを作ったり。さらには、日常と身近になり関心度が高まってくると、ドングリがグッズ化してきます。特に、私はこうしたブナ科植物にまつわるモノを、見つけるたびにひたすら収集しています。ブナの木で作られたスプーン、ドングリをモチーフにした雑貨などなど。たまに、ドングリグッズを集めるアラサーである自分に客観が入りますが、クマが好きな人がクマのグッズを集めた



写真2 日野市の市議会広報誌。市の木として「かし」が登録されている（成長は遅くとも安定していることから、着実に発展する日野にふさわしい木である、とのこと）ことから、かしのドングリとされるイラストが描かれています。

り、好きなアイドルのグッズを熱心に手に入れたりするのと同じように、これは私にとっての一種の「推し活」みたいなものだと思っています。

このように、東京都内のブナ科植物と人との関わりをざっと見るだけでも色々な関わりがあることがわかるかと思います。今回は植栽樹とグッズ化されたブナ科植物を見ましたが、食文化、酒文化、インテリア利用、信仰としてのブナ科植物など、まだまだ話が尽きません。が、情報量の多さがとんでもないことになるので、また別の機会に執筆したいと思います。

みなさんも推しの生き物と人との関わりを調べてみるとワクワクすることがわかるかもしれませんよ！



写真3 昭和記念公園内にある遊具。植栽されたいるどんぐりをいろんな場所に入れて転がせる遊具です。大人気でした。



写真4 ドングリのイラストが描かれたトートバッグ。